未来に伝えたい

# かねやまの宝

KANEYAMA
CULTURAL ASSETS

福島県 金山町教育委員会

# 未来に伝えたい かねやまの宝

険しくもおおらかな越後山脈、
まちをゆったり流れる只見川、
大自然に抱かれながら
静かに時を刻んできた金山町。
四季折々に表情を変える豊かな自然、
暮らしを彩る伝統文化、
まちの歴史を今に伝える文化財など、
ここには未来の子どもたちに
残したい宝がたくさんあります。
たとえ時代が変わっても、
ふるさとの記憶が色あせないように、
このまちが誇る宝の数々を、
次の世代にも伝えていきたい。
それが今を生きる私たちの使命――。

只見川沿いに集落と水田が立地する「中川地区」。
すこやかで美しい里を未来に残す「にほんの里100選」に選ばれています。

◎縄文時代から続く歴史あるまち

## 江戸時代には「南山御蔵入地」の一角を担った金山町

福島県の西部に位置する金山町は、高くて険しい越後山脈や尾瀬を源流とする只見川、二重カルデラ湖として知られる沼沢湖などを有する大自然に囲まれた山あいのまちです。

しかし、その歴史は古く、まちのあちこちから縄文時代中期の土器が数多く出土しているほか、中世には会津四家のひとつである山ノ内一族が町内に7つの城を築城。現在に続く集落の原形が形づくられました。

江戸時代には幕府が直接管理する領地「南山御蔵入地」（幕府の蔵に年貢米を入れたことから御蔵入と呼ばれた）となり、その一角を担う「御蔵入の民」ならではの誇り高い生活文化を受け継いできた歴史ある地域です。

位　置／東経139度31分　北緯37度27分
面　積／293.92平方キロメートル
人　口／2,066人（2019年1月1日現在）
世帯数／1,063世帯（2019年1月1日現在）

［目次］

未来に伝えたい　かねやまの宝
4 ― 金山町の風景「春」
5 ― 金山町の風景「夏」
6 ― 金山町の風景「秋」
7 ― 金山町の風景「冬」
8 ― 伝統芸能
10 ― 伝統行事
12 ― 郷土料理
14 ― 伝統工芸
15 ― 方言
16 ― 県指定重要文化財
18 ― 町指定重要文化財
22 ― 天然炭酸水
金山の文化財&温泉マップ

1

2

3

◎金山町の風景「春」

## 長くて厳しい冬を耐えた小さな命が一気に輝く春

深い雪に閉ざされた冬が終わり、人々に春の訪れを告げるコブシの花。その純白で飾り気のない様子は、まちの人々の温かな心のふれあいを表しているよう、と昭和51年に町を象徴する花として選定されました。

まちを覆っていた根雪が解け、山々のコブシの花が咲き揃う3月下旬。人々は農作業の準備を始めます。言い伝えによると、コブシの花がよく咲いた年は豊作だとか。今年も実り多い年でありますように。

標高約600メートルの太郎布高原。ここはアザキ大根の自生地で、5月下旬から薄紫色の可憐な花を咲かせます。その様子はまさに花の絨毯。厳しい冬を耐えた小さな命が一気に輝く金山の春です。

1）太郎布高原に自生するアザキ大根の花　2）沼沢集落と菜の花
3）樹齢推定 380 年の「鮭立のコブシ」（天然記念物）



未来に伝えたい
KANEYAMA CULTURAL ASSETS
かねやまの宝

1

2

3

◎金山町の風景「夏」

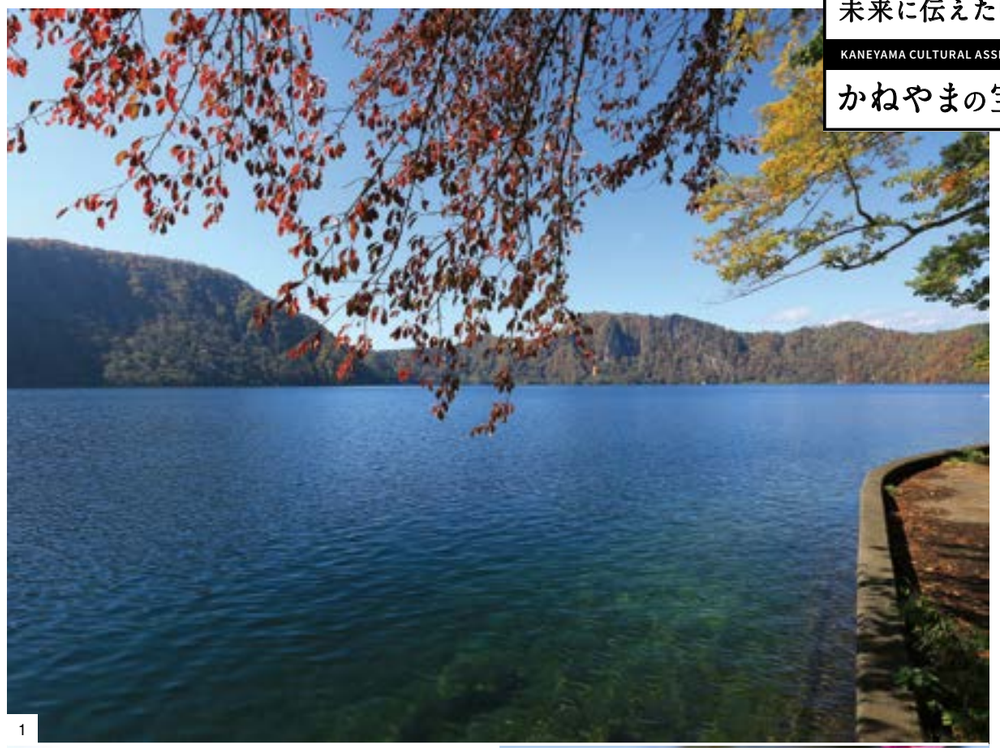
## 大自然が織り成すさまざまな景色に出会える夏

1000メートル級の山々に降った雪解け水が川を下り、田畑を潤す夏。金山町には、川の水量が増すこの時期に見てほしい景色があります。東北最大級の規模を誇る「滝沢川おう穴群」です。

おう穴とは、川床の岩のくぼみなどに小石が入り、水流で回転しながら川床を深く削った穴のことで、滝沢川では大小さまざまな穴が連なった岩の回廊を見ることができます。現在は遊歩道が整備され川床に近づくことはできませんが、かつては近所の子どもたちが水遊びを楽しむ憩いの場でもありました。

只見川に発生する川霧もこの時期ならではの光景。川に立ち込めた白いベールはまさに幻想的。雄大な自然が織り成すさまざまな景色に出会える金山の夏です。

1）一か所で穴の出来始めから終わりまでが見られる大変珍しい「滝沢川おう穴群」
2）幻想的な只見川の川霧　3）田んぼの脇を走るJR只見線



1

2

3

◎金山町の風景「秋」

## 足早に過ぎていく からこそ彩り豊かで 美しい秋

夏の余韻を楽しむ間もなくやって来る秋。まちを囲むように立ちはだかる山々は、山頂から徐々に紅葉色に染まり始めます。

標高475メートルという高い位置にある紅葉の名所・沼沢湖。数十万年前から続く火山活動によって生まれた二重カルデラ湖で、水深96メートルと極めて高い透明度を誇るまちのシンボルです。この湖には大蛇伝説が伝わり、毎年8月には大蛇退治を再現した湖水まつりが開かれます。

秋は実りの季節。集落を縫うように黄金色の田んぼが広がります。「にほんの里100選」に選ばれた中川地区など、ここには昔懐かしい日本の原風景が残っています。稲刈りが終われば晩秋。足早に過ぎていくからこそ尊い金山の秋です。

1）沼沢湖の紅葉　（2）にほんの里 100 選に選ばれた「中川地区」
3）道端に咲くコスモス



未来に伝えたい
KANEYAMA CULTURAL ASSETS
かねやまの宝

1

2

3

◎金山町の風景「冬」

## 雪に閉ざされても 人々の息遣いが 感じられる冬

越後山脈を挟んで新潟県と接している金山町。気候的には積雪の多い日本海型に分類され、多いときには2メートルを超える積雪がある県内でも有数の豪雪地帯です。初雪が舞うのは11月中旬。それから根雪が解ける4月中旬までの約5カ月間、人々は雪と戦い、あるときは雪に癒され、あるときは雪の恵みに感謝しながら長くて厳しい冬を過ごします。

まちの南西から北東に向かってゆったり流れる只見川。唱歌『夏の思い出』で知られる尾瀬ケ原を源流とする一級河川で、近年では川沿いを走るJR只見線との共演をカメラに収めようと、国内外から観光客が訪れる話題のスポットでもあります。雪深い中にも人々の息遣いが感じられる金山の冬です。

1）雪景色の只見川　2）新雪に覆われた沼沢集落
3）綿帽子をかぶったような家屋

未来に伝えたい
KANEYAMA CULTURAL ASSETS
かねやまの宝

◎伝統芸能

# 集落の人々によって受け継がれてきた「山入歌舞伎」

今から250年程前の江戸時代に始まったとされる「山入歌舞伎」。途中、何度が途絶えた時期はありましたが、地域の人々によって平成2年に復活。以来、金山町の祭礼日である9月5日に毎年上演されています。

演目のレパートリーは2つ。写真の「一谷嫩軍記（いちのたにふたばぐんき） 熊谷陣屋（くまがいじんや）の段（だん）」と「奥州安達原（おうしゅうあだちがはら） 袖萩祭文（そではぎさいもん）の段（だん）」。

INTERVIEW
インタビュー

「山入歌舞伎」代表
栗城（くりき） 英雄（てるお）さん

## 地域の絆を強める伝統芸能として後世に残していきたい

江戸時代から農村歌舞伎が盛んだった金山町。かつては地区ごとに一座を組み、歌舞伎興行を行っていました。中でも山入地区は歌舞伎に熱心な地域で、歌舞伎興行を通して近隣の村々とも交流していたようです。

近代に入るとその活動は地区の青年団に受け継がれ、収穫祭など特別な日の楽しみとして町内外で上演されてきましたが、先の大戦を機に途絶えてしまいます。

その後、再び伝統の火を点したいと立ち上がったのが栗城さんも所属する「山入近隣会」のみなさん。古い資料を紐解き、当時を知る人に話を聞き、平成2年、山入歌舞伎を見事に復活させます。

平成14年には県の補助を受けて芸能伝承館が建設され、本格的な舞台設備も完成しました。「現在、団員は約20人。みんな強い絆で結ばれた仲間です。年々団員の高齢化が進んでいるのは気掛かりですが、人々の絆を強め、地域を盛り上げる行事として次の世代にも引き継いでほしい」と栗城さん。江戸時代から続く重みのある宝です。

稽古に集まったみなさん。
本格的な稽古は上演の2カ月前から始まります。

1950年代に撮影された「南山義民小栗山喜四郎」の舞台写真（玉梨地区）

◎伝統行事

# 無病息災と家内安全を願う小正月の火祭り「歳の神（さいのかみ）」

## 小正月の伝統行事としてこれからも伝えていきたい

INTERVIEW
インタビュー

川口 上町地区
長谷川（はせがわ） 秀夫（ひでお）さん

1月15日の夜に行われる「歳の神」。かつては地区ごとに盛大に行われていましたが、近年は規模を縮小したり、開始時間を早めたりする地域も。そんな中、昔に近いやり方を継承しているのが川口 上町地区の「歳の神」です。「とは言っても今は昔ながらの材料が揃わなかったり、手伝う人の高齢化が進んだり。時代の流れには逆らえないね」と笑う長谷川さん。それでも町内からカヤやワラ、豆殻などを集め、高さ4メートルを超える立派な歳の神が出来ました。

歳の神が始まる午後7時。家々から持ち寄った御札や正月飾りを供え、四方から火を放ちます。夜空を焦がす紅蓮の炎。この火に当たると病気にならないという言い伝えも。時代は変わっても冬の風物詩として残したい宝です。

### ［ 歳の神の建て方 ］（地区によって異なります）

1 近くの雑木林から歳の神の芯にする4〜5メートルの御神木を伐り出す。

2 会場に積もった雪を踏み固めたあと、御神木を立てるための穴を掘る。

3 穴に立てた御神木に秋に刈っておいたカヤやワラを円錐状に巻き付ける。

4 御神木の先端に豆殻や爆竹などを詰めた「ハジキ玉」をくくり付ける。

◎伝統行事

# 家々を回り無病息災と家内安全を祈る「百万遍（ひゃくまんべん）」

## かつては地域の子どもたちが行っていた念仏行事

大きくて長い特製の数珠を携えた一行が地域の家々を回って念仏を唱える「百万遍」。この念仏行事を今に伝える中川地区では、毎年2月8日の夕方から執り行うのが慣例です。

家に招かれた一行は家族と一緒に輪になり、数珠を反時計回りに回しながら「ナンマイダーッ、ナンマイダーッ」と念仏を唱え、大玉が自分のところに回ってきたときには頭上にかざすように持ち上げます。これを3回繰り返し、その年の無病息災と家内安全を祈ります。

かつては子どもたちの行事だった百万遍。中川地区でも10年程前までは地域の子どもたちが家々を回り、すべて回り切った後に頂く報労金は楽しみでもありました。現在は少子化が進み、地区の役員が代わりに回っていますが、いつの日か子どもたちによるナンマイダーッを復活させ、次の時代にもつなげたいまちの宝です。

長い数珠を持って家々を回る一行。

念仏を唱えては頭上にかざす仕草を3回繰り返します。

◎郷土料理

# 母から娘へと受け継がれてきた金山町の郷土料理

## ふるさと金山の味を次の世代にも伝えていきたい

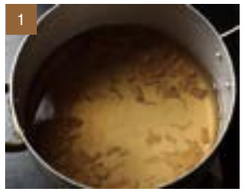
地元では料理名人として知られる目黒さんと押部さん。ふるさとの味を若い世代にも伝えたいと、定期的に郷土料理の講習会を開き、その普及に努めています。「金山町は田んぼが少ないからね。ご飯の代わりに腹持ちのいい芋類を混ぜたり、そば粉で焼き餅を作ったり。郷土料理には昔の人の知恵や工夫が詰まっているんだよ」とお二人。ここでは、季節の変わり目や晴れの日によく作られきた金山町を代表する3品をご紹介します。

INTERVIEW
インタビュー

（左から）
目黒（めぐろ） 喜代子（きよこ）さん
押部（おしべ） チヨさん

## 正月や祝い事の席には欠かせない晴れの日の料理「こづゆ」

干し貝柱でダシをとる「こづゆ」。山あいの金山町では、その干し貝柱を手に入れるのも大変だったため、かつて「こづゆ」は贅沢な料理でした。その代わりキクラゲやシイタケ、マイタケは山に豊富にあったので、乾燥させて保存食にしていました。具材は7種類以上。家によっては、ちくわや鶏肉、銀杏を入れるところもあります。



1 干し貝柱を水から茹で、沸騰したら弱火にして2〜3時間煮てとっておく。

2 ニンジンと里芋はひと口大、戻した乾燥キクラゲは食べやすい大きさに切る。

3 糸こんにゃくは食べやすい大きさに切り、沸騰したお湯に入れてさっと茹でる。

4 干した貝柱や椎茸、舞茸の戻し汁に野菜やキクラゲ、糸こんにゃくを入れて煮る。

5 具材に火が通ったら醤油、塩を入れて味を整える。

6 最後にぬるま湯で戻した豆麩を加えて完成。

## 冬至カボチャの代わりに作る季節の料理「煮ぐるみ」

小豆、里芋、カボチャ、さつま芋などを甘く煮た汁に、腹持ちのいいすいとんを入れた「煮ぐるみ」。冬至かぼちゃの代わりに食べる冬の料理です。かつて砂糖は貴重品だったため甘さは控え目に。そうするとさつま芋の甘さがより引き立ちます。現在はすいとんの粉を使いますが、昔は身近にあったそば粉を使う家も多かったようです。

1 里芋やかぼちゃ、さつま芋は食べやすい大きさに切り、水から煮る。

2 すいとんの粉を水でといて練り、耳たぶくらいの柔らかさにする。

3 すいとんは食べやすい大きさにちぎって平たく丸め、沸騰したお湯で茹でる。

4 野菜の入った鍋に、事前に煮ておいた茹で小豆を加える。

5 砂糖と塩で味をつける。

6 最後に茹でておいたすいとんを入れ、もう一度味を整えて完成。

## 畑で採れたこんにゃく芋で作る「刺身こんにゃく」

昭和50年代頃までは、こんにゃく芋の産地として有名だった金山町。中でも上野原地区には、こんにゃく団地と呼ばれる芋畑が広がっていました。加工に適した芋になるまで丸3年。手間は掛りますが、冬場の保存食にもなるので自家用に作る家も多かったようです。自家製こんにゃくは、煮しめや筑前煮などにも利用されます。

1 鍋に水と精製ソーダを入れて火にかけ、とかしておく。

2 こんにゃく芋の皮をむき、1cm角に切り、水と一緒にミキサーで擦り下ろす。

3 鍋に2と水を入れ、中火で固まるまで混ぜたら火を止め、ソーダを入れて混ぜる。

4 バッドに流し入れ、空気を抜いて整え、一晩冷ましてから切り分ける。

5 沸騰したお湯にこんにゃくを流し入れ、1時間程度煮る。

6 刺身状に薄く切り分け、皿に盛り付けたら完成。

◎伝統工芸

# 冬仕事として受け継がれてきた「マタタビ細工」

INTERVIEW
インタビュー

マタタビ細工職人
諏佐 信平（すさ しんぺい）さん

## この技を後世に残すためにも、多くの弟子を育てていきたい

農作業のない冬場の手仕事とし受け継がれてきた伝統工芸品「マタタビ細工」。この技を後世に伝えようと定期的に講習会を開いている人がいます。町内でも数少ないマタタビ細工職人の諏佐信平さん（89歳）です。

山に自生するマタタビは、梅雨になると葉が白くなります。その場所を覚えておき、10月下旬から11月下旬に収穫します。加工に適したツルは1年もの。収穫したら切り口を1週間程水につけ、日陰に干して保管します。「職人は自分の技を隠したがるけど、私はやる気のある人にはすべて教えたい。後世にマタタビ細工を残すためにもね」と諏佐さん。大事に使えば50年以上は軽く持つと言われるマタタビ細工のザルやカゴ。自然豊かな金山ならではの伝統工芸品です。

### ［ マタタビ細工の作り方 ］

1 ツルの表皮をむき、作るものの大きさに合わせて3〜5等分に裂く。

2 ズイと呼ばれる芯の部分を切り出しナイフで削り取る。

3 ザルの底部分から慎重に編む。この編み方は「網代編み」。

4 最後に縁を始末したらそばザルの完成。マタタビのザルは水切れがいいのが特長。



◎方言

# 金山の気候風土と暮らしの中から生まれた方言の数々

INTERVIEW
インタビュー

金山町の方言を研究
長谷川（はせがわ） 清尚（きよひさ）さん

## 金山町の方言は雪に関する言葉や遠回しな表現が多い

東京女子大学と金山町の方言調査を長年にわたって行ってきた長谷川清尚さん。特徴的なのは「気候に関する言葉」や「遠回しな表現」が多いこと。「気候に関しては、ここが豪雪地帯に位置しているため自ずと雪の微妙な違いなどを表す言葉が増えたから。遠回しな表現に関しては、ここは地域社会の規模が小さく、人間関係が密接であることから、遠回しな言い方をすることで社会生活を円滑に保つ工夫をしてきたのだと思います」と長谷川さん。

若い世代の方言離れを止めることはできませんが、何らかの形で残したいものです。

### ［金山町の方言の例］

**雪に関する方言**

- ぼほらゆき／新雪、柔らかくて軽い降ったばかりの雪
- ぎんじる／雪が降り積もり、その重みで凝縮して硬くなること
- かんじる／非常に冷え込む、凍みる
- どっぷらぼー／雪で作った落とし穴（の蓋）
- める／減る、特に雪が解けて減ること、日照や気温の上昇によって雪が目減りすること

**遠回しな表現**

- まで／質素、倹約（文脈によってはケチという意味を含むことも）
- ねづい／熱心で丁寧な様（転じてしつこい、遅いというネガティブな意味に用いられることも）
- でがさね／ふさわしくない、うまくいかない、いまひとつ
- おんぞこね／人が一人前でない、いい加減だ、どうしようもない

**マタギことば**

本名地区から新潟県境の御神楽岳へ向かう途中にあった三条集落にはマタギがいて、独特な言語体系を持っていた。

- しし／クマ
- さしぶたてる／火をたく
- なめつける／槍で突く
- ひめにまわされた／雪崩の下になった（ひめは雪崩）
- まっこ／囲炉裏
- もんざ、あかづら／サル

**その他**

- きしぇわりー／気分が悪い、バツが悪い、嫌だ
- うるかす／水に浸す、水につけてふやかす（転じて物事にあえて手をつけず放っておくことにも）
- さすけねー／差し支えない、大丈夫、問題ない
- ひまぜー／時間を無駄に過ごすこと
- ほじなし／社会的に一人前でない、礼儀をわきまえない、常識に欠けている
- まめ／元気、勤勉、丈夫、活発、精力的

◎方言で昔話

# 金山の昔話を子どもたちに語って聞かせる「昔語りの会」

地域に残る昔話や民話を、方言を交えて語る会を定期的に開催している方たちがいます。結成して約20年という「昔語りの会」のみなさんです。この日は金山小学校の児童を前に、6つの昔話を披露しました。日常生活では方言を聞くことも、話すことも少なくなった現代の子どもたち。楽しみながら方言にふれる貴重な時間になりました。

INTERVIEW
インタビュー

昔語りの会
（左から）
若林（わかばやし） 照枝（てるえ）さん
栗城（くりき） サイ子さん

［ 県指定重要文化財 ］

# 鎌倉時代建立と伝わる木造寄木造りの「宮崎聖観音座像」

未来に伝えたい
KANEYAMA CULTURAL ASSETS
かねやまの宝

## 右手の仕草から「おはじき観音」と呼ばれ、古くから親しまれてきた観音様

木造寄木造り、高さ約1メートルの等身像です。両眼には水晶で作った玉眼がはめ込まれ、体全体に塗られた漆の上には金箔が施されています。左手には蓮華を持ち、右手は胸の前で手のひらを前に向け、第一、第三指で印を結んでいます。その指先の形がおはじきをする仕草に似ていることから、別名「おはじき観音」と呼ばれ、古くから親しまれてきました。この観音像がいつ建立されたかは定かではありませんが、そのお姿から鎌倉時代中期に中央の仏師が造り、この地の領主が安置したものと考えられています。

### 宮崎聖観音座像

| 指定 | 昭和 49 年 | 所有 | 宮崎地区 |
|---|---|---|---|

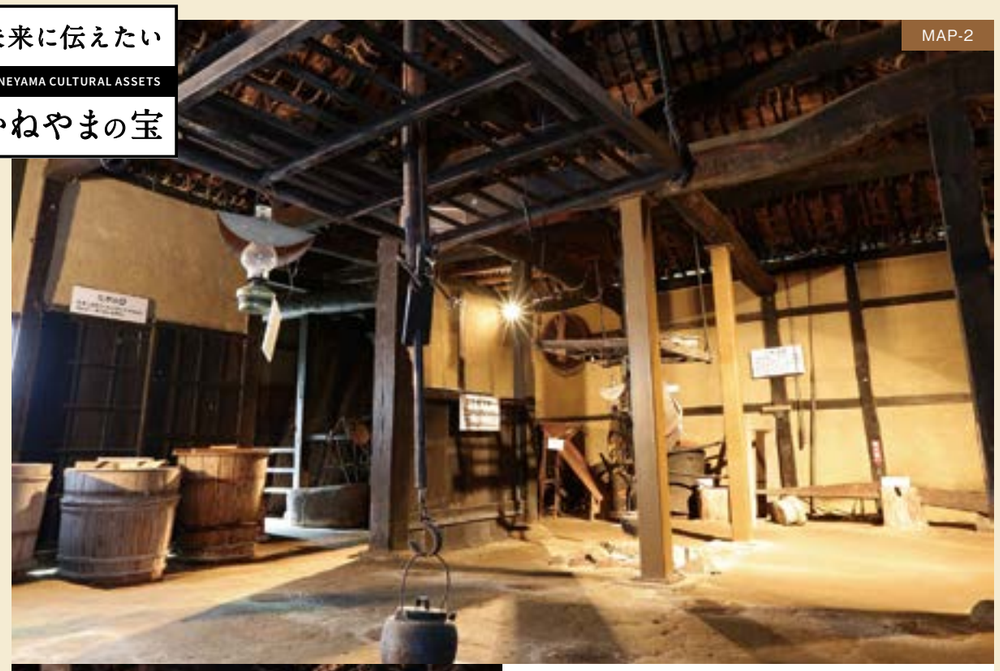
観音像が安置されている「宮崎大悲堂」。毎年6月には地域の女性たちによる観音講のお参りがあります。



［ 県指定重要文化財 ］

# 江戸時代中期の生活様式を伝える「旧五十島家住宅」

未来に伝えたい
KANEYAMA CULTURAL ASSETS
かねやまの宝



## L字型の出っ張った部分にウマヤを設けた会津地方の標準的な家

この住宅は、沼沢地区の五十島家が江戸時代中期の宝暦頃に建てたものを現在の場所に移築。原形を残したまま正確に復元したものです。会津地方ではL字型の民家を「曲がり屋」と呼びますが、この出っ張った部分にはウマヤ（馬小屋）とトイレが設けられていました。雪深い会津地方では、農作業に使う大切な馬や牛を外で飼うことができなかったからです。住居部分の母屋には、板敷きの部屋が2間、茶の間と作業場に使うタタキの土間が2つあり、天井は裏板を張らずに化粧屋根裏にしてある点が特徴的です。

### 旧五十島家住宅

| 指定 | 昭和 53 年 | 所有 | 金山町 |
|---|---|---|---|

玉梨地区にある「自然教育村会館」には「弥平民具」と呼ばれる民具が数多く展示されています。これは玉梨地区の栗城弥平氏が私財を投じて収集したもので、江戸時代から昭和初期に使用された民具の集大成を見ることができます。

未来に伝えたい
KANEYAMA CULTURAL ASSETS
かねやまの宝

## [ 町指定重要文化財 ]

MAP-5

### 山ノ内文書

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 山ノ内家 |
|---|---|---|---|

指定は山ノ内文書の中の「山内横田系譜」と「石田三成書状」の2件。系譜は山ノ内から分かれた滝谷の横田姓を中心にしたもの。書状は伊達政宗に攻められ、豊臣秀吉に援軍を嘆願した際に石田三成から返書されたものです。

MAP-6

### 氏勝の馬具

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 山ノ内家 |
|---|---|---|---|

戦国時代、金山谷・伊北郷を支配した山ノ内氏勝が愛用した馬具一式。鞍の前輪、後輪、居木ともに黒の漆塗りで、前輪の全面には「白一黒一」の山ノ内の家紋を金蒔絵で施した見事な品です。

MAP-7

### 中丸城跡

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 横田地区 |
|---|---|---|---|

中世の約 400 年間、この地方を支配していた山ノ内氏が本拠地とした山城跡。標高 547 メートルの要害山の頂に築いた城で、現在は山頂付近に郭跡と摩利支天を奉った石の祠が残っています。

MAP-3

### 鮭立の辛夷

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 鮭立地区 |
|---|---|---|---|

樹幹周囲 2.6 メートル、樹高 20 メートル、意賀美神社の境内に立つ推定樹齢 380 年の大木。その花の持つ純白でかざり気のない印象にあやかり、昭和 51 年にまちを象徴する花に選定しています。

MAP-4

### 小栗山の道祖神

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 小栗山地区 |
|---|---|---|---|

男女2柱の姿を一基に彫刻した双神像を中心にした道祖神群。双神像は硬質の安山岩を浮彫にしたもので、彫りが深く立体感にあふれています。江戸時代中期に造られた五穀豊穣と子宝の神様です。



MAP-8

### 玉縄城跡

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 川口地区、個人所有地 |
|---|---|---|---|

山ノ内から分家した俊甫が、只見川と野尻川との合流点にある山地に築城した山城跡。城の名前は、山ノ内ゆかりの地である鎌倉北部に現在も残る地名 “ 玉縄 ” からとったものと考えられています。

MAP-9

### 本名式縄文土器

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 金山町 |
|---|---|---|---|

昭和 40 年代、本名の寺岡地区で行われた発掘調査の際、多量に出土した縄文土器のひとつ。年代は今から 4,000 年前の縄文中期。口縁部に立体的な装飾突起が付いた芸術作品のような土器です。

MAP-10

### 宮崎式弥生土器

| 指定 | 昭和 48 年 | 所有 | 金山町 |
|---|---|---|---|

昭和 40 年代、中川地区（旧宮崎村）で行われた発掘調査で見つかった弥生土器。年代は今から 2,000 年前の弥生中期。縄文時代に比べ質的にも、形状的にもより実用的になったことがうかがえます。

MAP-11

### 糠塚古墳

| 指定 | 昭和 49 年 | 所有 | 大志地区 |
|---|---|---|---|

太郎布高原の糠塚で発見され底辺の直径約 30 メートル、高さ約5メートルの円墳。造営は古墳時代後期の7世紀。表面には形の崩れを防ぐため葺石を敷きつめ、頂上には巨大な川原石を載せています。

MAP-12

### 水沼の道祖神

| 指定 | 昭和 52 年 | 所有 | 水沼地区 |
|---|---|---|---|

水沼から上田に向かう旧道の下り口にある江戸時代中期に造られた道祖神群。小石に穴を開けたものを奉納すると耳の病気が治るという言い伝えがあり、像の前にはたくさんの小石が奉納されています。

MAP-13

### 石原経塚

| 指定 | 昭和 52 年 | 所有 | 大栗山地区 |
|---|---|---|---|

江戸時代初期に築かれた4つの経塚の総称。中でも第一経塚は底辺の周囲が約 10 メートル、高さ 1.5 メートルと経塚としては大規模なもので、当時の人がいかに弥勒信仰に傾倒していたかがわかります。

未来に伝えたい
KANEYAMA CULTURAL ASSETS
かねやまの宝

## [ 町指定重要文化財 ]

MAP-16

### 大塩の老杉

| 指定 | 昭和 57 年 | 所有 | 大塩地区 |
|---|---|---|---|

宇奈多理神社の参道そばにある樹幹周囲約 5.7 メートル、高さ約 25 メートル、樹齢推定 500 年を超える巨木。杉の成長とともに近くの祠が幹の中に包み込まれてしまったという伝説もあります。

MAP-17

### 高祖沼沢府君之碑

| 指定 | 昭和 57 年 | 所有 | 沼沢地区 |
|---|---|---|---|

高祖沼沢府君とは沼沢地区を治めた沼沢実道をさし、その功績を称えるため、家来だった農民たちが浄財をまとめ、宝暦 12 年（1762）、ひ孫の沼沢一通がこの地を訪れた際に石碑を建立したと伝えれています。

MAP-18

### 涅槃図

| 指定 | 昭和 58 年 | 所有 | 常楽寺 |
|---|---|---|---|

寛保３年（1743）に当時の住職・快宣が入手したとされています。実物は縦 159 センチ、横 105 センチの大きな涅槃図。釈迦が入滅し、弟子たちが悲しむ様子を金粉を交えて色彩豊かに描いています。

MAP-14

### 鮭立の磨崖仏

| 指定 | 昭和 52 年 | 所有 | 鮭立地区 |
|---|---|---|---|

幅約5メートル、高さ約2メートル、奥行き 1.5 メートルの洞穴に彫られた江戸時代後期の 51 体の仏像群。風化が進み、現存するのは 36 体。中でも不動明王が多いことから作者は修験者と考えられています。

MAP-15

### 宮崎館跡

| 指定 | 昭和 62 年 | 所有 | 地区共有地 |
|---|---|---|---|

川口地区にある玉縄城の支城として、川口氏の重臣であり娘婿でもある宮崎右近行友が築いた館跡。河畔の絶壁に築かれたこの館は、伊北街道と只見川の水運を掌握する重要な位置にありました。



MAP-22

### 高屋敷中井館跡

| 指定 | 昭和 63 年 | 所有 | 谷ヶ城家、栗城家 |
|---|---|---|---|

玉縄城に移った山ノ内俊清が天文 13 年（1544）以降に、弟の政詮に 20 貫文を与え、支城として築かせた館。険しい地形を活かした堅固な館です。地元では長い間古墳ではないか、ともいわれてきました。

### キマダラルリツバメ

| 指定 | 平成 17 年 | 所有 | ー |
|---|---|---|---|

東北では岩手県と金山、三島、柳津にのみ分布している稀少なチョウ。幼生期は共生アリのハリブトシリアゲアリがいる桐や桑、柿の樹皮下でアリにエサをもらい成長します。絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。

MAP-24

### 山ノ内屋敷跡

| 指定 | 平成 18 年 | 所有 | 山ノ内家 |
|---|---|---|---|

中世の約 400 年間にわたってこの地を支配し、「会津四家」と呼ばれた山ノ内氏の居館のひとつ。東西約 94 メートル、南北約 77 メートル、三方の土塁と深田堀に囲まれた大きな屋敷だったようです。

MAP-19

### 大志の子安観音

| 指定 | 昭和 58 年 | 所有 | 大志地区 |
|---|---|---|---|

像高 54.3 センチ、台座の高さ 23.8 センチ、光背の高さ 66.4 センチでその最大幅は 27.6 センチの聖観音立像。寄木造りで頭部はヒノキ、体幹部はサワラ、左手はヒノキ、右手はホウの木が使われている子育ての観音様です。

MAP-20

### 太郎布駒形ノ館跡

| 指定 | 昭和 61 年 | 所有 | 太郎布地区 |
|---|---|---|---|

山ノ内道俊が領地を守るために応永 15 年（1408）に家臣の和泉清徳に築かせた館跡。北と東には険しい地形の木冷沢を利用し、西と南には土塁の上に柵を築いて防壁とした堅固な館だったようです。

MAP-21

### 廻戸の一里塚

| 指定 | 昭和 61 年 | 所有 | 五十島家 |
|---|---|---|---|

小さい一里塚は、塚とは気づかれずに崩されることがあります。しかし、これは若い山伏の実宗とオナツ夫婦の墓だという伝説があったため、現在まで壊されずに残ったともいわれています。

## ◎天然炭酸水

### 明治時代には海外に輸出されていた金山の「天然炭酸水」

古くから薬泉として親しまれてきた大塩地区の天然炭酸水。明治10年には旧会津藩士が「太陽水」と命名。白磁の瓶に詰めて薬店で販売していました。明治36年には資本家が入り、欧州の会社と提携。国内では「万歳炭酸水」、海外では「芸者印タンサン・ミネラルウォーター」の名で販売していた歴史ある炭酸水です。

「井戸の深さは約4メートル。冬から春は水量が多く、夏から秋はなぜか少なくなる」と教えてくれたのは保存会の馬場さん。平成21年に地元の有志10人と結成。来た人に気持ち良く利用してもらおうと、定期的に井戸の管理を行っています。天然の炭酸水が湧き出る場所は日本に数カ所。うち2カ所が町内にあるのですから、金山の大地に感謝です。

明治 10 年に販売されていた「太陽水」

INTERVIEW
インタビュー

天然炭酸水保存会
会長
馬場（ばば） 清次（せいじ）さん

最後にまちの宝をもうひとつ。大地の恵みともいえる温泉です。町内には只見川やその支流の野尻川沿いに泉質や趣の異なる個性豊かな温泉が７つ点在しています。いずれも湯量が豊富で、気軽に日帰り入浴が楽しめる温泉ばかり。文化財を見て回ったあとは、ぜひ温泉巡りも楽しんでください。

滝沢温泉（民宿松の湯）

金山町公式キャラクター
**「かぼまる」**

金山町特産品「奥会津金山赤カボチャ」の妖精。
頭は赤カボチャ、リボンは炭酸水、
体は温泉を表現しています。
人の集まるところが大好きです。
好きなものは、赤カボチャ、炭酸水、温泉。



玉梨温泉共同浴場



大黒湯（せせらぎ荘）



八町温泉共同浴場

発行 ｜ 2019年3月

［お問い合わせ先］

福島県 金山町教育委員会

〒968-0011 福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393
TEL：0241-54-5360（教育係） FAX：0241-54-5377
https://www.town.kaneyama.fukushima.jp/